

組織評価の改善状況報告書

平成27年 3月31日

評価会議議長 殿

教育学部長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成26年度の改善状況を報告します。

要改善事項
基準13「国際化の状況について」だが、外部評価委員の評価が平均2.3であり、「改善が必要である」という結果となった。委員のコメントから、グローバル化に対応できる人材の育成、また地域からの「国際化」への視点も重視した「グローバル化」を目指す人材育成が課題として挙げられる。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
ESD・国際化WGを立ち上げ、学部として国際化に向けたシンポジウム（平成27年3月）やESDに関する研修会等（平成27年2月）に取り組む。
改善状況
<p>教育学部では、「ESD・国際化元年」ともいうべき2013年度に続いて、2014年度も取り組みを活発に行った。ESD関連科目8単位のうち授業科目「現代社会の諸課題とESD」の実施、ESD研修会の開催、静岡市立幼稚園（3園）や県内の中学校（2校）などユネスコスクール申請支援等を行った。また、ガジャマダ大学（UGM：インドネシア）と8月と12月に相互に大学訪問し合う学生交流を行った。さらに、インドネシア教育文化省、UGM、UPI（インドネシア教育大学）と静岡大学の4者の共同参加による「ESDに関する国際フォーラム」（2015年3月～7日）をUGMで開催した。</p> <p>また、平成28年度改組では、小学校教員養成を重視しその拠点となる「初等学習開発学専攻」という専攻を新設する予定である。この新専攻は、課題解決型学習などの新しい学習理論と方法に基づいた教科横断的・総合的なテーマ内容について、授業デザイン力と実践的指導力を習得する専攻となる。ESDは日本の学校教育が世界とつながること、すなわち「グローバルな視点から課題に向き合い思考し行動する枠組み」を与えてくれる。この専攻では、ESDを統合概念として大事にしていく予定でもある。</p>
達成年度（予定を含む）
平成27年度、教員養成のグローバル化対応として、ガジャマダ大学（UGM：インドネシア）やインドネシア教育大学（UPI）学生交流プログラムを継続・充実させるために組織体制を見直し、同時にESD・国際化WGの教員を中心にESD教育実践プログラム、具体的にはESD関連科目を学部の

カリキュラムに導入し、改善を図る。さらに、第3回のESD・ユネスコスクール研修会を開催（平成27年10月）し、国際的に通用するESDについての理解を深め、教員養成に還元できるシステムの構築を図っていく。

要改善事項

外部評価委員において、教育実習等の時期が課題として挙げられた。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

教育実習については時期等を含め、教育学部と附属学校園で検討していく。（平成25年度から26年度）また、平成26年度入学生から卒業要件を「単免」化すること、また、教育実習の時期を「実習Ⅱ3年（6月）、実習Ⅲ4年（5月）」に変更し、平成28年度からの新カリキュラムのスタートを目指す。

改善状況

これまで、教育実習Ⅱ・Ⅲを3年次生の5月から6月にかけて5週間連続（一部の協力校実習を除く）して実施していた。教育実習の時期も見直し、実習Ⅱを3年の6月に、実習Ⅲを4年の5月に変更したが、平成27年度の3年次より、実習Ⅱと実習Ⅲに分けて実施する。

また、平成26年度入学生から卒業要件を「単免」化することに決まり、基幹免許に併せた実習の内容とし、平成28年度からの新カリキュラムで実施することになる。

達成年度（予定を含む）

教育実習の時期については、3年の6月に実施してきた実習Ⅲを4年の5月に変更することになったが、移行期間ということもあって、平成27年度は3年の6月に実習Ⅱを、平成28年度は4年の5月に実習Ⅲを実施する。卒業要件の「単免」化については、平成26年度入学生から適用し、実施となる。それに向けて基幹免許状決定に関わる希望調査を、平成27年度では対象学年（2年次生）において行う。